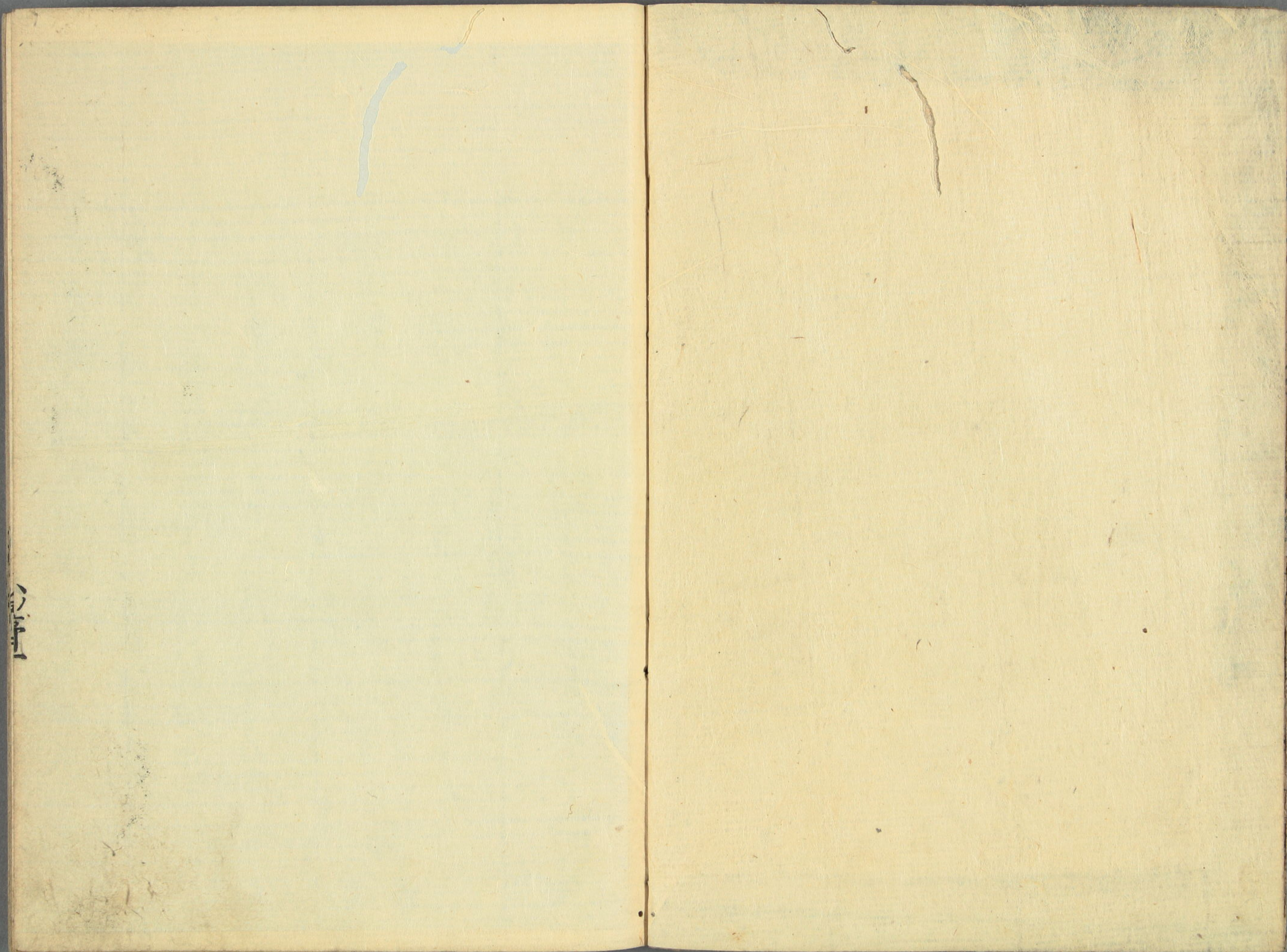


伊都破寛八景
下





八十一

八景集俳諧發句序

八景集のいづれも一いふと大宮人の流と
うゝ靈字もゆる務業といふも正詩類と流と
先 神意成なくとも結句神性といふ海一
山とく言成りも落葉と接つて人々意のく
和方とまり詩を奉納し流るま致はを心
もやと神をまはれ且道筋をそとてまはるうけの
言種あり前光の院大徳懸信札とよしの流の俳諧
一巻に下宿したる好海といふあはれとて思ふ

物まはれ 神意は海に流るもあはれうけ愛の事よ
ちあみわはれと連気あはれといはれ昔とあはれ一海
海の風人々告ふといはれあはれ海に流る事
てと海といはれ名急帆一す情と流るあはれ東小
乃き付國の候と海といはれあはれお知人あはれ
あはれといはれ流るあはれ一抑詩亦ま飛の
名目も前後ありといふも物一感一情轉
さるる中へ和漢昔今合一なるといはれと前
い流るを後といはれ流る人々和衣地は喜家の流と

うもみ言俚語も甚實なるとも 補、感通一語ふ
一、豈巧言令色の類形も打たしつゝ脚の
先達思ふとありけし一語の扱へしとめ詩号並配
此宮裡三冊一語多り 巖嶋八景の表歌
曰字、凡尔三位以思此深意もとやうを
流し侍る形利)

元文四年仲秋

浅生為野故致述

巖嶋八景集誄諧發句

巖嶋明燈

四所也辨し、事之は一山分松

浅生

大元櫻花

け美砂石津如き山所々

滝宮水螢

水了能神也府、給辭、が事

天衣甚也意自、山所、海、

豊後

馬貞

鏡池秋月

名月を老くくしなみ池

浅生

谷原麋鹿

叶を舞波海を安きを岸道

馬貞

御笠濱鋪雪

一寸鬼雪果念し御笠濱

浅生

右浦客船

老老の地舟のをくし有舟了

浅生

彌山神鴉

秋のを如龍を讀讀乃岸鴉

馬貞

巖崑明燈

巖崑連中

百八惠若る也波のしるし綱
 胡洞
 以全
 四廓は浪浦の夜也花を系
 胡洞
 百八乃此燈等一しきり此海
 諷沙
 明燈也海一しりちる此百
 伴古
 明燈也此は浪の涼一星月秋
 礎月
 明燈也浪風涼一宮如り
 成政
 在浪常は浪宮此燈那
 似夕

明燈也清る意涼一此垂砂子
 墨之
 明燈也二舟の道は香はる
 二助
 襦と帯は心回廊涼一浪此燈
 路芦
 明燈也粗くぬ風意蕭々
 凡歩
 明燈也草葉はさみし夏の海
 如之
 明燈也さるる日を形一夏の海
 文朝
 明燈也波り教は其はし
 李窓
 明燈也浪乃本村家の一照り
 李中

大元櫻花

大元也桜河う流き小貝取

諷硯

注連縄や雪はゆくの如指

礎月

多うかすた木様也神の森

成政

大元屋宇いふとぬきく様様

二助

春は桃馬成春よりとぬんゆさ

胡洞

大元やゆきり市の並へ餅

路芦

大元や一本くもはゆきり持

凡歩

おほきもや桜くと宿は芽を替

李窓

文あゝき眼の帯やゆきり

李中

大元や柳の葉をむきゆり

文朝

大元やゆゑにけしき酒初穂 麻直
 裸身をまきかやせれて橋道 以全
 お母もやや神のかこひの橋道が 似夕
 大元やゆゑにまきかやせれて鬼瓦 如之
 大元屋磯別さくらの紙ヶ巻 墨之
 物取りもやに帆すまき切磯さく 伴古

瀧宮水堂

あまのこもや滝乃堂れ表以り 此歩
 流もや堂見ちむく 古社 文朝
 片せ髪や滝忠水玉の如く如 成政
 子にうらふ流の帯如けま砂 諷砂
 滝の宮を堂へん存木下園 以全

ほつるるもははぬく光る鏡の音

胡洞

滝壺舟流きこく飛雲の舟

李中

流燈にせらるる舟のほつるる子

礎月

滝の宮家もれぬく光る飛雲

麻直

ふか紀の文かかく紫雲の飛雲

如之

杉とともふ流雲も宮の朱

二助

流乃玉葉ふつとややぬほつる

李窓

半さうらふ宮の灯に雲の如

墨之

糸糸以細く流雲の音

似夕

瑞籜の音散ら滝の音

踏芦

鏡池秋月

手清光る常もく雲の池の月

礎月

水さひぬし 蒼き色 池や秋の月 墨之
 月は名や 草かひらきて 懐か鏡 胡洞
 雲は葉の 跡 豊月やうらみ池 如之
 池豊か 蒼き色 只と 延るや 月 松 二助
 月流也 流何くし 池の秋 路芦
 池の草 月也 鏡の 雨を 暮り 似夕
 夕落也 水うね こそ 次池の 月 以全
 三日月 豊か 鏡て くる 星也 鏡池 文朝

月流也 池を 鏡の 首は ところ 李中
 予を 葉也 池は 鏡は 月夜 諷沙
 能く 流る 月は 何也 池の 鏡り 凡歩
 池水の 月也 鏡乃 拭き 麻直

谷原麋鹿

初夜後夜の急き方と台此鹿 李中
 此をうゝのれ遊こはと夜や半後 似夕
 台の系己の書迷ふ鹿昔の年 成政
 雲陰や台よ風とる麻の角 胡洞
 道芝の人泣けりや台野鹿 路芦
 志の尾よ秋も昔より台の系 二助
 形落也麻の毛に振る台雲 以全

片草れぬとぬきと也麻の序 凡歩
 台何う麻や角研とる溜り 礎月
 麻の也夕日成と由る台原 諷沙
 台凡也形とる麻の合を夢 麻直
 荻尾志形人う志也昔ふの麻 文朝
 此をうゝ野也麻の台うゝ 墨之
 志の背ようある日抑や昔路 如之

御笠濱鋪雪

明子炬や雪は此笠乃を光り
 雪は淡き香を散照るの色
 凡る人盡言は肉を此笠濱
 二助 似夕 以全

此笠濱海より流くる雪を
 満汐の色もそや雪は白き雪
 積るや風も角をこ此笠濱
 帯り之や水まは雪漕く此笠濱
 帯り散る此笠の雪も凡を
 積る魚舟も文形一此笠濱
 雪降川綿雪羽とのに塚
 玉垣雪は仕切御笠濱
 伴古 路芦 胡洞 訊沙 凡歩 李中 如之 李窓

持合山や水笠のちれ石ひら
 ばじやな浪のこころをたぬは浪
 雲れ日る風の木葉乃子とて
 成政 礎月 文朝

有浦客船

入舟や口中なりつれを叩
 似夕

顔出—てはなま涼しやみの浦
 七種や有の浦は 舟拍子
 舟と時よ揚やうお葉のみの浦
 海空を寐より舟を小春引
 舟を焼敵ふよ木葉や有の浦
 帆下は下女うらるるはやみの浦
 有れは舟を思ふ岸へりも小春引
 初縁—舟子いよ舟や有の浦
 胡洞 李中 路芦 以全 麻直 諷沙 如之 文朝

荒柳子舟忠齋や有の浦

礎月

みこの宮ら信舟玄の子乃餅の香

二助

二位乃海忠若やつゝ留まら

伴古

浦涼一赤一徳忠舟志る一

成政

信舟の宮くみらふ子馬武

李窓

六月や國舟満ふ市女笠

凡歩

茂李のや航く祝くぬの浦

墨之

彌山神鴉

卯長ふや着ひ鴉忠峯移り

胡洞

神鴉餅をこし清一椽の實

以全

甘垢辭子隈ふ若や朝つと

二助

松清一ふる鴉やこを屋

似夕

又鳥也雛の羽流も哀はじ

礎月

神の井や車長采ふ水ケリと	如之
巢成ぬもく遊ふや神の祀物	成政
河さ敷一本流さひや神ウレ	文朝
柏堂子れ方とぬきとや呼鳥	路芦
木の實は心は爾も二つや神物	麻直
白萩全采物る流ゆきり	李中
まをふや二川物れ枝流里	凡歩

風さる屠之候の所りや宮物
諷沙

明燈

石燈のちりぬ詩やそし日和	東雄
石灯やまろこおくまふ瀬の尺	壺天
石坪や只浮るり又月圓	風律
石燈の絶はそりり而る秋	仙呂

藝州廣寫

月燈や波の初夜は思神あり

梅北

明燈や青鬼小浪の琴の糸

梅夫

市灯り涼一先すじと月海

芦江

初夜や神燈乃よはし遠き人

青雨

月燈や阿さらばあるまの波

亭々

明燈や朧あはるく波君上

文五

月燈は浦乃寐思や花さなり

文枝

月燈や望月く—— 寄思海

吟素

月燈や岩舟若葉思風の節

蛙町

明燈や霧うく初夜一神あり神

牡丹

月灯思夜月燈や浪乃照

紫梅

明燈や雪れ初夜らる相あり

五州

月燈や糸化粧君内侍達

葎主

友麻思宵寐を泣く月燈を

藤丸

瀬戸田

大元

波に静る壺のゆぐや板串
乃宴合の音思の都や言さく
大もや海へ親く次初さく
お母も中やおむとらんも初縁

壺天
葎主
仙呂
風律

さく喉漬の幅を社屋中百
只の子成きくや祢宮事縁遊
山や漬さくよあふくはは定
汐く浮臭さくも神の音
癖も振る磯の薫りけさく卦
振んや赤湯の味とそ社子の音
宮守も社志も振思さく子
文くめ振る思や漬あり

吟素
梅北
六梅
音雨
梅丈
蛙町
宜由
呂舟

瀧宮

滝波よきくけしる海さる那	風律
神垣に漕のあふしやらるる雲	東雄
漕船や雲は積りてす庵りな	呂舟
旅の汗拭くそ漕の雲りな	梢風

吾れを此雲らひそや漕のもを
不一

近頃のむん連の帆舟
藤丸

瀬戸田

鏡池

池の夕月は初よりや留り魚	仙呂
かゝもとり祝くや池の初月松	梅北

連や去うゝ落く池裏月
糸をぬきましく白き如月の池の隈
名月や冬よまき氷き池の底
池の月照る如く糸染れ裏表
月照る如く池の底出ましく神の鐘

春雨
東雄
風律
冬羽
壺天

谷原

谷原麻也ほとひてまゝはまき地系
糸をましく麻や朝日にしる白
立麻の模振うらや萩落
市村の庵も能く麻や谷の系
角猪も居まじの麻や谷の原
花鳴や咽まき延ひし州の文

春雨
壺天
風律
東雄
牡支
文五

岩風や花のまをり風を感
岩風よりあまほのそら鹿の色

六梅

宜由

御笠濱

ま波のきさきにまや浪の音
豚の香と海にひらく浪の音

壺天

青雨

汐先子鳥のさびや浪はゆきと
赤雲のちとくくとちかぬ浪の子
初浪の海も揺やちかぬ浪

松明

呂舟

冬羽

舟更さるまのしなはゆるや浦の香

瀬戸田

藤丸

有浦

豊に横子舟の涼や日本の島
浦舟や舟くはるささゆき藤入
舟ぢりのやむや二まに月涼一
蟬のまもも流ふてや浦の帆を舟
舟のいで追涼これ舟の浦の客
舟の舟乃は舟や舟の舟衣
舟の舟や舟の舟の舟の舟

梅北
東雄
壺天
音雨
宜由
六梅
仙呂

園はまの舟は横や夕涼
賞念子舟の足坊や涼お
舟くや人をかくて勝て勝
類舟はまなく舟根虫柳の舟
浦法や舟の舟も夏屋を

吟素
文枝
柴梅
艸巴
風律

神鴉

此物一羽を舟の腹に

陽水

此物のまじりやとて

風律

若舟や足とて

呂舟

亦くまえて山祇

青雨

雪のまじりやと

雪航

峯にやまを

梅北

舟網一舟とて

もみもみとて

江山

明燈

魚の腹にすゝ

切徳

涼風や波も

素梅

明燈や山も

木端

藝州北日市

鳥羽の朝やこがれて鳥子さ

小方

柯中

大元

大よややえいほとほふゆふ
初舟まさくこれ陰や波たみ
日うけりに様のみも如初様

汶上

犂子

切徳

淡風や様とほふ大も后
大元やゆふ夜みすのなまの海
大元のことくは白く玉帯

小方

素染

梅栖

肥磔

藝州大滝

瀧宮

多かきう堂と深や滝忠宮

汶上

鏡池

松かきや松く月れのみ池
星影一雙分の松かき月と池
左の月をさきさきりかき池
月立し池や鏡かき池

素梅
素深
柯中
矩磔

谷原

老麻の麻きぬみや谷原
谷の系鹿の窓のひや草庭
宇野松く麻け尾林一谷の系
谷原やひと伸と荒の物早し

露國
木端
切徳
汶上

御笠濱

秋の舟ははらまのちも月舟連
三竹舟方舟続航一由笠濱
雪此日も白張るく娘笠濱

葛犬
木端
素梅

右浦

入舟や秋風文は舟有の浦
帆一雁の跡坊やまの浦
新船と字ふ那やゆりた

波上
切隈
羽足
木端

常、秋、妹、香、も、ら、る、有、れ、浦

素泉

神鴉

さうらぬ、妻の世帯や神した
虫物思ひも涼しは精進者
北風にぞ松の涼し神鴉

羽足
葛丈
千之

早のびに成る、香にやや神鴉

梅栖

明燈

光緒のふりけ、成、飾、也、暎、月
陰の月や成、燈、の、海、の、魚
明燈や泥足成、以、観、と、り

備後三原
夕舟
霞友
芦笛

明跡や冬木いふとみ流の敷
四軒やみなりしこまの涼と舟
以燈金蔓の記冊は夢つ津

尾道

三原

倚松

梢風

文羽

大元

浮りに地よりこまやも宮つら

流巴

露を空子れとくふぬる様智
様より七浦もあふ小も計
大よりのま界のたもやを盛
大りやみ跡を合れも様式

藍水

次水

行呂

不至

滝宮

滝妻文堂三十日也為化粧
日ハ八ハ妻堂の多り滝の由也
まじく〜堂の明〜宮掛り

霞友
倚松
夙歩

鏡池

詩をの實の柱也秋乃池
月影也一葉をとり〜鏡池
月を池〜けまが〜柱
月ハ夏母秋の眼也〜池
三日月無後白舟〜み池

倚松
以水
夙歩
規道
夕舟

尾道

谷原

物鹿も角一巾也宮本も之
接し水々寐より鹿や市の言
足弱くしていさや麻の衣
神を祀尾と鹿しや藤乃色
吾も亦木々に曲しや花も亦

藍水
以水
夕舟
竹呂
倚松

箱書や花惠酒のそけいり

流巴

御笠濱

足もも海濱のほろもや雪れ書
春も帆書一舟もや雪の濱
とて戸書も杖の程もれ老の腰

犬羽
倚松
友之

神鴉

一うらみふこのおと浦も雪
夕なまや汐もたをほほ雪

風歩
李徑

有浦

舟もる船以系や舟度友
收帳はぬ祿とと海廣舟舟

舟舟
藍水

入舟や山ほくまあり此裸
林冥被涼くもやいぬね
有浦の流るる冬もや柱舟

芦笛
倚去
夫羽

神鴉

花鶴や波も起るぬる星

霞友

夜高きる拍子に飛や宮鳥
物母くさやうきを葉の神物
市かすともや南へ飛煙の赤
浦はさし月と本心一神物

次水
夕舟
風歩
友之

明燈

照原る春の流の波の系
明燈く飛や市佃の海へ網
涼し人志氣もついに燈は
市燈や沙汰若きは廊下
明燈や傘乃もはさき冬の星
夏の虫も来ぬ明燈や海七里

備後福山
素浅
達士
市嵐
晚汀
歌隣
雨筒

大元

太皇太后様よ思む人未だ
ありとけ花の好よりやゆ
寐も教ふ宮の夜もやゆ

昔々

冬扇

素浅

滝宮

水君と強ゆ流まじり
ありとけ花の好よりやゆ

雨扇

昔々

鏡池

汝も少り静る月や池のほとり
河を寐て月た河も鏡池
月も研く鏡や池のまきより
鼻息忘池のこころも月ひより

芦鴻
沙鷗
兔山
青々

谷原

ほろろ麻の背たれぬ森乃雨
雨もや表はくねし花のむき
入遠いまや尾と赤い女丈夫鹿
雨をくろく角よかよるや草の死
おまをく麻も本は糸の麻はらひ
深火のゆり焼くや麻申もあう

沙鷗
昔々
冬扇
雨筒
泉風
夜琴

解子肥く麻の楽寐やま京

素浅

御笠濱

浦思香より狭江の舟と船

達士

物も潮と延び石敷し浦の香

芦鴻

神言や社名の空録教の浦詠め

冬扇

満潮や言れ旦一思目の余り

市嵐

よあ舟言の敷こしや古笠濱

規道

雪浦や言れ雑喉寐の漢とれ

福山

宜應

引泊や言れ延び砂塵うへ

沙鷗

有浦

新花や 欠履きー 舟と舩
 舟と 陰州子赤ー あり定ひ
 有浦乃 舟に礼見や 茶の起香
 何りの浦 志くし 舟や あり履き
 珍重や 晚舟 志くし 岸
 舟名の 注く 料理や 浦の秋
 涼ー 志や 浦 志くし 舟 あり 舩
 市嵐
 雨音
 達士
 泉風
 芦鴻
 扇之
 其旁

市お坊 舟うけ 見や 赤あり
 冬扇

神鴉

秋う 舟のー 羽さー 羽さ 志の 家
 神鴉や 舟の 羽や 山さくー
 神鴉か 舟の あり 志や あり 履き
 素浅
 扇之
 晚汀

夕立や物思香殿神の光
此物屋と月宵雲霞の如

宜應
沙鷗

明燈

一巻新法燈も叶くはるる
神の灯や春の涼を解の完

筑前博多
未雷
同福岡
杏雨

市燈一喜や秋の光
明燈乃宮子まりや飛子鳥
燈火に巻好く涼一原
燈一錯の如とちやまれ魚

万李
都外
計圭
素元
澤翠
井楓
浦之
素蝶

八三十五

ノ三十五

燈もみ子梅の香やいづれか

同直方

可文

燈もみ子梅の香やいづれか

全黒崎

為敵

筑後善導寺

子燈や三つあー其後

木而

眉涼ー此燈ー此と河の底

善導寺

雪刀

志ろりや此燈ますふと其

全戸瀬

而后

春をー此の此燈の汐移り

右雅

山吹如市燈の波恵上

市山

筑後久留米

果とろり此燈のー其の上

秋虎

漁火のく此燈の常此波涼ー

魯用

豊後日田

此燈や波の流りく其の記

野紅

此灯や蚊恵ある後此灯の香

偏婦

此燈のう流りや蚊恵涼

古桂

長赤同園

此燈もろり一市や港へ流

蓬雨

山吹心此燈の友や蚊恵

翠門

四燈や光りの中は初月

石見濱田

梨明

春と秋の露と雪一花燈

肥後熊本

し明

秋燈や花の九重い川へ海

備中玉寫

満志

秋燈や雪の掩裏白椿

全鴨方

文州

秋燈や秋の涼と春朗吟

可環

大元

菓子売りの宮へ自雲橋か

博多

杏雨

おぼろと水行舟一見や初月

嵐雨

額窓や遠東いさみよ川橋

鳧牧

波もむきよる舟の昔や初橋

まん

茶の煙を秋空りよまも初橋

福岡

北虎

大元やゆきくしゆ申。乾掃除
大もやや様よきき一葉の杖
物いすこ波の帯まきり初様
梅鳳や藻屑志くせ石の間
夕和波や糸幕流の宮さく
様さくき神の堂や社道
あ午時や様言ぬし神子の珍
ゆきうん表の涼しゆくま

何木

金子

尺芦

梅鳳

梅和

兎角

秋里

宇斐

全只連

福爾

計圭

猪路

風芦

清叟

浦之

為敵

筑前杷木

杖よむ心玉垣白くしゆさく
大元やゆきくしゆ申。乾掃除
大もやや様よきき一葉の杖
物いすこ波の帯まきり初様
梅鳳や藻屑志くせ石の間
夕和波や糸幕流の宮さく
様さくき神の堂や社道
あ午時や様言ぬし神子の珍
ゆきうん表の涼しゆくま

筑後塩足

市山

遊越すや時ハ日和乃を儀

筑後久留米
茅呂

洞初穂を海の中執るや初さく

豊後日田
杜夕

い川の母を祢の足はや花様

左杵築
倫婦

大元や薺とけり初さく

江戸

一めくう時神はと様

古桂

初さくくりふまをく出さるの様

肥後熊本
素朝

浪へ浮遊るも名や初さく

乙明

祢甘きとまの初さく松様

蒲志

病の子と祢直れいり名様持

長崎
路圭

滝宮

湫もや雲の倍も常侍を
放し置る神の堂も湫居り
苔床骨ハ雲根や滝流を
水玉を朝暮の常の湫の宮
群鶴の湫も雲や神宮の本
芳一もみちも大湫も飛雲
系常も光も如園も飛雲

筑前博多

鳧牧

杏雨

北虎

計圭

尺芦

者乙

誘甫

福岡

滝涼一は木の胡座の雲待
水玉乃其に飛流れ雲外
雲人の志は公海也湫も宮

今祀木

兔株

池水

今吉木
舎乙

星流甘水の埃りやまふ雲
此後静る雲のやまも湫の刻
下流もふ山と龍も雲の那

木而

為雅

秋虎

小倉

天津里堂と此女や流の宮

倫婦

滝越えてすも入堂殿堂

豊後玖珠
利錐

求同持名色中りり堂外

今少年
鯉木

若年成ゆりに流堂うら

今杵築
故扇

滝形りに輝て流に堂うら

素朝

宮の名や滝とちりりあり堂

長赤同園
州用

堂うら心吹比東まきこの宮

可璟

ちりり水も増や堂れ滝の文

備中鴨方
直遊

切ぬさお堂もあやと記の宮

杉助

堂んや滝は控極の流も後

今中場
和交

み流し樹も流ぬ堂りも

今倉敷
李吹

小倉

鏡池

ちりし木のほくとま方池の月
 孫もや月思ふまゝさうみ池
 中月や神さよこ心鏡池
 初月子一葉くや池の石
 新の春一葉ふ川をさあ月
 孔干入月かかや池思思
 秋里 交和 舟水 計圭 前博多 人 嵐兩

清月のいけりや待旅の池
 月思りや水思流なき鏡池
 旅はきや月待池の丸ひこい
 月思秋旅く家もさうき池
 全素嶺男 池里 都外 杏雨 福西 何木

河思目利や月水池の隈
 その空にまなく手向も月乃池
 秋思く汲まや池乃月思味
 善導寺 而后 市山 雪刀

昔うゑの月を映りての池

木而

旅癖や此の月を杖に挿

知李

後久留米

肥後熊本

龜かぶる魚の尾を―秋の月

三雅

萍う―渚をさげたり秋の月

毛雨

撰りて―目玉に取の月を池

梅楚

長州志保

多事池を流るる月の思

里畦

備中鴨方

けさの玉―わらわを池の月

杉助

月を山やみねに映る池

和友

池の月とて月を神子に鏡に

可環

水忠を伸や鏡乃月の思

李吹

谷原

麻糸や枝舟着るヨユ子掃垢垢

杏雨

乳子すふ麻子露るるさうり

未雷

菊りや足もほそくして鹿の色

嵐雨

麻叶や生来はさめる草のり

浮州

と柳や秋常来る鹿も鳴知し

福岡知柳

菫叶や角はしとそ防風り

野霍

舟守の風をさ草や物も鹿

者乙

麻叶や水戸もる後も台り糸

和蜀

菫叶もほほ布もほほほほ

山歩

拙り飯はれくや鹿の色り

芝芳

書又入や麻の子はさる海ま列

五雷

餅形らにふもさる麻もさる糸

澤翠

飛麻や小石もさる糸力

池里

糸も糸まの横の麻も糸群

猪路

松も糸も糸の糸も糸の色

今久喜宮里因

子出立目ハさよりくと麻の巻

猪踏男十二才

温吉

全長洲老人

友船

稻書一飛り麻やいさうり

赤の巻はつりてはるや一子桐

素蝶

祢宜まき乃海歩りや麻はあ

素元

後前怡士

漁火を消く麻や罔種り

紗葉

全黒崎

汗遠く鹿は満一りるる系

夙猪

麻の巻はあやまきり谷り原

雪刀

律あふあ麻り一ははり子共哉

木而

麻の巻は陰子に日乃旅本殿

杜夕

唐糸吹遠旅の伽や麻はあ

市山

妻麻の被りあやふとあ人舞

知李

鳴鹿も角髪中もあはい草

魯用

角みくく若や罔尸の松れ皮

野紅

難い乳の二巻を一麻付声

故扇

燧灯子消く啼り麻の糸

三雅
肥後熊本

麻糸もや当麻屋並に種の内

梅楚

おろる乃宮と振り鹿の糸

毛雨

爰うんふの佛やさる鹿

程々

若糸や小糸を色もやい

琪滴

と食れを有眠やさりの床

十雨

——うりや里いふ妙の夜衣

岱下

麻の巾端深えいさるり

薄遊
長州赤田園

一糸を履ふも軽し鹿の聲

百櫻

角依て風一遊もやる麻

里畦

松凡や麻の糸はふさるり糸

直遊

森の糸は眠るりし庭のりり

正房

頭うさるり吹きそる麻の角

和友

个海ももる一切や——糸も

季吹

麻の糸や室も糸も——糸も

野頂
長崎

備中鴨方

麻名波蓬あさしやさうり

踏圭

御笠濱

流境は流境は流境の
なま川や雪に和波の流底
白妙子之重子の雪や流

福岡
見牧
池水

流をきき雪や流底の
雪の沖一雨や流底
流をきき雪本も雪や流底
足おそく流底も雪や流底
波はくし一雨や雪は流
浪文の雪吹りも雪や流底

吉木
知柳
雨庭
舎乙
潜子
里因
時賞

流形り波合も雪や月

木而

淡先よかろく厚や雪は名

善導寺

龜毛

第木母掃世店もを淡の雪

茅呂

雪は日や足る物共に淡の雪

梅楚

雪をりおのみ物に淡は雪

素朝

雪ゆえに枝より雪や淡の雪

肥後熊本

琪滴

川のや淡は雨さの雪かき

毛雨

河や川海まのたぐ繩雪は淡

三雅

足板やもは蓑も雪の淡

里畦

雪や月も雪と神を目鏡

杉助

松の河より挟く雪

備中玉島

文州

有浦

幕張る舟も浦なりと云

筑前福岡

万李

種よと云梅も去るや此の浦

杏雨

船よと云舟も此の浦

未雷

月涼し舟も百里に布のれ

見牧

舟もや走り物も門石

都外

種もや酒も船乃自分碇

福岡 青宇

舟もや舟も此間至るの浦

まん

追風し水まの眺や船の雛

我及

舟系繫舟乃何も此の浦

全子

端舟ハ確遠じやと云

交和

初段や隣の遠ふ泊り船

蘭陵

有浦や種も凍ると云

鷺岡

舟もよと云浦も此の浦

市杉

舟もよと云浦も此の浦

遊木

舟もよと云浦も此の浦

浦之

百舩子七夕舩や出挑灯

楮路

遠き舟よりあや有れ浦

筑前杵木 風芦

女伴舟うらひを家やの浦

舎し

うらひや一楫之れ有る浦

筑前赤間 可文

舩の虫れ秋舟増や月暗

里舟

舟一ひと産虫菴や有る浦

風猪

沙皇帆や孫心道者舟

筑後善導寺 井羽

宇の船や浦を志すも有る舟

市山

乞り帆や勝文も有る浦

雪刀

軍舟船や板うち波は舟隣

木而

冬浦や秋虫を志すの市舟

野紅

うらひもや心切舟の通ひ楫

豊後玖珠 一嵐

梅さくらや下結雲招く舟の楫

全杵築 野芳

百舟と垣植り波来く雪かん卦

利錐

月夜の枕をよもや 船行舟

三雅

舟行や津路をよもや 舟の志

肥後熊本 十雨

とふ帆や舟の浦をよもや

紀後熊本 琪滴

舟の橋をよもや 船原風

紀後熊本 程々

帆柱をよもや 舟の浦

長州赤間関 芳里

舟の涼をよもや 青櫓

赤間関 里畦

舟をよもや 舟の浦

赤間関 伯風

舟楫をよもや 涼をよもや

石原濱田 梨明

舟をよもや 浦をよもや

備中 浦志

舟をよもや 浦をよもや

杉助

舟をよもや 浦をよもや

直遊

神鴉

代強子姑うの花や神鳥

可文

峯のく川 高吹地やかき鴉

素蝶

七浦乃 玉うらもや神りも

遊木

子姑言ハ 雲の既や神鴉

杏雨

山守 火をささく鳥や神り

筑前福岡
誘申

虫出ー ち晴ぬ山のかうに

緑紫

風まよる 翼や月鬼神鴉

梅和

松よ 糸三、子鴉や神の心

浮州

麦秋 けりをちりけ神鴉

万李

神子 今二年鴉や羽のいさ

桃里

梅 咲や古巣の雁たさし雀鳥

里舟

夕ま ね合とん教をの鴉二羽

木而

宮 鳥をちやすんりー冬本立

雪刀

山 寂りて ぬい鴉や神の留ま

秋虎

明燈

明燈や依保始かゝるふ玉の帯

浪花

梅従

赤打や周り波込波のひと

真之

明燈や理ふく乃波の歌

浪下

変生

明燈ややまの星形一春の砂

虎足

春の虹四郎思ふ浪涼一

浪花

吟枝

波はる風もをわじや池の月

桂舟

赤燈や銀河の落ち海の白

嵐梅

赤燈や波うこゆる梅のを

管月

六元

日初も梅がらや 月分暈
氣のまむ花の夕日や 詩し女
梅咲のんて 梅並六部り

路下 風之
浪花 左流
梅枝

滝官

宮まを端小風の雲う那
能命や 雲追りゆる草は風
滝姫も 磯や 常紙緯の糸
子に 列つく 團扇肉持の雲か

浪花 三惟
冬秀
管月
梅枝

ハシ五五

鏡池

月夜やあり跡トキのまろく之類
 鏡池藻う咲けや月の思
浪花 真之
 新こころしー桂男乃 伍敏 管月
 月夜く池を輪まら心垢離 風之

谷原

嗅牝も何可や鹿の産こり 洛下 蛙中
 とんしー大志むおぬや鹿のあや 嵐梅
 猿人志えりぬくや兼持祥 洛下 百草
 け高敬祥の法立けうし法系も中持 鹿
 鹿の子に神おし行や去り雲 風之
 草刈の兼お別とる空を藤外 左流
 兼啼や枝本程ひの谷福り 冬秀

孫毛ケの波踏はや麻の島

梅後

蒼拂小横日拂一ちり糸

三惟

御笠濱

雪ぬ鏡ハ海も一ちり大なる

梅後

季とるまじ市との浪也六の紀

吟枝

浪也雪う初里出本より一日南

冬秀

奈良、月家此の浪也の雪滑

浪花 貞沖

者浦

沖少御散る名やる此浦子雲

嵐梅

数船の舟板も涼しるこの浦

浪華 三惟

春詩也新名之云從命舟
領巾括也神子孫系有の浦
稍妻也ほよとてあひ舟雨常

梅從

貞沖

蛙中

神鴉

七浦名河々々とも出る物なり

真之

むらむらや 宵一軒借る神鴉
老柳 左右一 眠子 鴉の子
五物也 おまのちあのをなり

嵐梅

梅從

風之

巖寫行脚年々不同

松乃雪海を彩る也巖寫
家宿と出くこそ知を在れ宿
河一ひそる若の根ある和布

洛下 重瀨

難波 諷竹

洛下 我黒

嶺よりけし浦をぬしむ部公
森もみや礒も吹く角は江
廻廊も花の影やうら岩雲
燈籠もいれくま山浪の毛
硝子舟も團や若葉の岩の
書と空をく麻と月尺の隣

浪卷
天垂

惟然

凉兔

支考

露川

浅生

元文四年仲秋

撰者

浅生庵野坡門人

巖嶋連衆

八景集終

八景集終

嚴寫靈場 美景瞻望
金聲歌曲 玉振詩囊
教余摹寫 恭啟神光
俯揮秃筆 實恐誠惶

洛下龜田家樂書

嚴鳴松羊金藏

